

かしこい子どもを育てるために

基礎基本の定着と伝え合う力を育てる／一人一人を大切にしたいきめ細かな学習指導

取り組み状況・成果・課題

- ・研究主題にもある「問い」を大切にしたい授業を展開してきた。
ICTを活用した授業に取り組むことで、わかりやすい授業づくりにつながった。特に算数では、言葉・図・式などを用いて説明する活動を通して、多様な表現を使って自分の考えを表現する力が育った。教科によっては、教材研究が不十分なところもあった。
- ・話し方・聞き方・伝え合いに関しては、学年に応じた系統的な指導をしていく必要がある。
- ・家庭学習で新たに自学ノートに取り組んだことで、自分で学習することを考え、まとめる力を育成することができた。しかし、取り組み内容や時間などには個人差がある。
- ・昨年の結果に比べて6・7・8とも教師のABの割合が増えている。また、昨年度までの研究を基盤に、新教育課程に向けた準備を始めてきた。個に応じた指導の工夫を全職員が同一の歩調で行う確認をし、チームティーチング、学習ボランティアや学生ボランティア、家庭科や総合的な学習の時間を中心とした地域や外部講師の活用を行った。特に学習が苦手な児童には細かい指導ができた。評価に関しては、授業を進める中で児童の意欲・関心を高めるような評価を心がけてきた。今後、保護者にはよりいっそうな取組の啓蒙が課題である。

改善策

- ・研究を継続し、児童が自ら問う授業が展開できるような「しかけ」を探っていく。
まず、「読む力」を身に付けるために、読み取った内容を多様な表現で「書く活動」を進めていく。書いたものについて、よりよい表現はどれか、それがなぜよいか、などを授業で問う。そうすることで、「読む力」の検証ができるだけでなく、「話す力」「聞く力」も総合的に身に付けることができると考える。
- ・家庭学習については、引き続き、個々に応じた声かけを継続していきたい。
- ・チームティーチング、学習ボランティアや学生ボランティアなどの成果が認められている。今年度、学校応援団を募り、家庭科など地域の方に授業に入っていただき児童の学びに効果を上げた。今後も教育課程のよりいっそうの工夫を行い外部人材を積極的に発掘し活用していく。
- ・各家庭に発信した家庭学習の手引きをもとに、学校と家庭の連携をより密にしていきたい。そのため学年総会や懇談会での話題とし、児童が意欲的に取り組めるようにしていく。校内研では、実践を伝え合う場を増やし、教師の一人ひとりのスキルアップを図る。

学校関係者評価でいただいた意見等

- 保護者のアンケート結果のバラツキ「話す」「書く」が気になる。
- 教師の結果とのずれ。それが疑問符
- 国語中心としたものなのか。
- *国語にはとらわれず全ての面での言語能力である。アンケートの結果として、保護者はこういう傾向に出る。
結果を真摯に受け止め会議等でやっていく。
- 保護者の傾向「読む」「書く」「話す」「聞く」が低いのでその改善を。
- 道徳的なことが欠如しているのでは
- 授業がわかりやすい 楽しい家庭学習の大切さとの結果が出ている。ここが大切ではないか。家庭力の向上が大切。生活「朝ご飯」等の基礎的なことが大切。
- 親としては学習面に目がいく傾向がある。
- 学校に関心を持ってきているからの数字ではないか。

*AIの時代が来る 暗記だけでは通用しない。生き抜く力が求められている。伝え合う力を身につけてほしい。
授業の工夫。校内研で授業の方法を研究している。「問い」に焦点を当て研究を続けている。そこを基盤に進めていく。

○ABをたせば最低でも7割がOKを出しているからよい。

○授業参観を見て双方向性のある授業などの工夫が見られる。他民族ではないのでコミュニケーション力が大切

○少人数のグループでの話し合いを大切にしてくれている。

○外部人材の活用の具体的なものは

*今までの具体例 スクールサポーター（家庭科）の説明 開かれた学校を目指す上でも有効である 可能であれば教科にも取り入れていきたい。

○家庭科に参加しての感想 一人の先生の負担が大きいと感じた。できることでの参加、声かけをして人数が増えてほしい。自分にとってもよい時間であった。

*反省の中にもよかったという声が多かった。

○ミシンを使わない時代になった。

*外部人材という場面では子供たちの楽しみにもつながるので、今後も声かけを続けたい。

5年生はP会長にもお世話になった。

思いやりのある子供を育てるために

温かく豊かな生活環境を作る

取り組み状況・成果・課題

- ・学校長が率先して玄関前に立ってあいさつをしてくれていることや、児童会のハイタッチ運動、さらには地域と連携した運動などにより、あいさつできる児童が増えてきた。しかし、玄関前であいさつはできていても、校舎内ですれ違ったときに自分からあいさつをする児童は少ないように思われる。
- ・言葉遣いについては、模範となるべき大人が気を付けて話すように心がけてきた。また、読書する機会を増やすことも、言語環境の充実につながった。しかし、相手に誤解を招いてしまったり乱暴な言動をしてしまったり、という実態も見られた。図書館の利用については、学校で平均すると良好な数値が得られるが、クラスごとに利用状況の偏りが見られる。
- ・校内研究で道徳を取り上げることで、道徳の授業についての研究が深まり、自分自身の道徳の授業を見直すことができた。道徳の授業を充実させるために、年間の計画に沿って1時間ごとの授業を大切にしていきたい。
- ・来年度から「特別の教科 道徳」としての道徳に校内研究が重なり、教材研究がなされている。学校長による師範授業に学び、学年でも相談し合って教材を作るなど、充実した様子がうかがえた。
- ・外で児童と一緒に遊び、児童の言葉に耳を傾けることで、児童理解に努めた。
- ・問題を抱えたたくさんの児童に対して、家庭環境に配慮し共通理解を持ちながら、全職員一丸となって取り組むことができた。

改善策

- ・あいさつ運動を継続して取り組んでいく。玄関先だけでなく、校舎内、さらには学校外でもあいさつができる児童を育てるための方策を考えたい。
- ・日頃から、場に応じた、相手に応じた正しい言葉遣いを心がけていく。特に、自分が発した言葉を相手がどのように感じるかについて、考えさせる場を設けていく必要がある。
- ・今後も全校体制で共通理解を図りながら、解決に向けていきたい。

学校関係者評価でいただいた意見等

- あいさつするようになった。
- 前よりあいさつするようになった。
- 見守り隊の皆さんのあいさつが浸透し、変化してきている。コミュニケーションがとれるようになった。
- 大きな犯罪もなくなった事も要因では。
- 子供が先生を信頼しているという項目が高いのがよい。
- マメルメールの活用が有効である子供にも浸透している。
- 学校のセキュリティーの向上が厳格になっているのがいい。
- 開かれた学校とのギャップはあるが
- 入れなくしておいて用事がある人が開ければいいと思う。
- *「あいさつ運動」についての説明 地域の声の紹介 自然発生的にできれば一番よいのでは 地域と子供たちがより顔見知りになってほしい。
- *記述の中から「あいさつ」については正対する考えが出されている。3/4はよくなったとの記述が出されている。

元気な子供を育てるために

運動に親しみ健康な体作りをめざす

取り組み状況・成果・課題

- ・ほとんどの児童が体育の授業は楽しいと感じている。また、保護者も子どもたちが体育を楽しみにしていると評価している。昨年度に比べ、教師のA評価が高まっている。運動を苦手と感じている児童や、運動に意欲的に取り組まない児童への働きかけを意識して指導に当たっていることの表れだと考えられる。
- ・三者ともに肯定的な評価をしている割合が高い。「健康・体力づくり一校一実践」に継続して取り組んできた成果だと言える。5月に行った新体力テストの結果からも本校児童の体力が向上していることがうかがえる。ただし、シャトルランの結果に関しては課題が残った。
- ・毎月の便りなど計画的に行うことで、児童や保護者に健康や食の大切さに目を向けてもらうことができた。発育測定の際の保健指導や、給食の時間の食育で健康について関心を高めている。また、栄養教諭・養護教諭が授業に入り指導の充実を図ったり、委員会活動では、健康に関して情報を発信したりする機会を設けている。今年度は、食物アレルギーや感染症予防について実践的に学ぶ機会を設けることができた。

改善点

- ・今後も継続して個々の能力に応じた運動の場の設定や、体力向上のための運動量の確保をしていく。また、教師の指導力向上のために、自ら研修に参加したり、各種資料を参考にしたりする中で、「運動やスポーツが楽しい」と感じる授業づくりを目指す。
- ・引き続き一校一実践「国母フィジカルUPプラン」のなわとび運動や、ストレッチ体操に取り組み、体力の向上を目指す。なわとび運動の中では、一定時間跳び続けたり、曲に合わせて跳んだりすることで、楽しみながら持久力がつくような活動を取り入れていく。
- ・児童の健康や食に対する意識をさらに高めていけるように、家庭とも連携を取り計画的・継続的に指導を続けていく。

学校関係者評価でいただいた意見等

- 体力テストの結果は *昨年度に比べて向上が見られる。

- 縄跳びは *今年度は特に縄跳びでも持久力を求めてさせている。
- インフルエンザの流行は *今年度は特に低学年が少なかった。
- お茶うがいは。 *続けています。
- 体育関係の項目が高い。
- しばらくの間校庭が使えなくてかわいそうだったが、今は外に出て大勢遊んでいる。
- 縄跳びの時の音楽は *流している。
- 縦割りの活用は。 *今でもやっている。
- ラジオ体操を知らない子もいる。 *国母のびのびストレッチが続いている。

安心安全な学校にするために

自分の身を守る力を育てる

取り組み状況・成果・課題

- ・本年度も防災防犯訓練を年間計画に従って実施した。取組として、より実際の場面に即した状況を想定して行うことで、訓練の有効性を高めることができた。これまでは児童に対して予告なしで訓練を実施をしいたが、職員にも予告なし、想定を知らせずに訓練を行った。
結果、多くの課題を洗い出すことができた。
- ・定期的な集団下校、学年集団下校を通じて、全校体制で指導を徹底し、それを各学年の発達段階に応じた指導を行うことができた。それぞれの登校班で問題が生じた場合は、その都度担当職員によって、適切な指導を行うことができた。
- ・下校時間に児童の下校と保護者等の車の出入りが重なってしまう。何らかの安全対策を考える必要がある。
- ・不審者侵入防止対策として、校舎の出入り口を一か所に限定し、保護者及び来校者の経路を明確にした。児童や職員の導線も変わる事となったが、安全に対する意識を高めることができた。

改善策

- ・課題例年のとおり、避難訓練等の基本的な考えを職員が共有し、事前指導として児童に落とし込んでいく作業を行う。いろいろな場面を想定し、対応できる能力を養うために、「予告なし」「想定周知なし」という訓練を取り入れ、緊急に対応する力を養うことを目指す。
- ・日常的な指導を行い、定期的に登下校に付き添い、校外での登校指導を行う。その際には通学路の安全点検および確認を行う。校区の安全確認のための活動を行う。
- ・児童の下校時刻と保護者の迎えの車が交差する問題を解決するために、具体的な方法を検討する会を組織し、より良い運用を模索していく。
- ・本館のリニューアルに関わり、安全管理上のハード面での充実がなされるように要望事項として加える。
学校内外の防犯・防災上の問題を把握して、迅速な対応ができるよう保護者・地域との連携に努める。

学校関係者評価でいただいた意見等

- *今年度の取り組みの紹介 施錠 校舎へ入るための一元化 これからの維持が課題
避難訓練も徹底している。子供たちもしっかり対応できている。
- 自転車でのヘルメットの着用 推奨推薦でかまわないので、学校でも指導的な取組をしてほしい。
- 40年ほど前から静岡ではヘルメット着用を行っている。
- *中学校ではどうですか。
- 自転車通学が減っている。

- 遊びに出るときは自転車。事故はほぼ自転車
- 家庭での呼びかけも必要。
- *学校でもふれているが 「かぶりなさい」 までには言えないところがある。
- 親も自らかぶる姿勢を見せる必要があるかも。自転車のケガは頭のケガが多い。
- 加害者になってしまうこともあるので自転車乗りの指導を。
- 集団下校時に通学路を歩かない子もいる 災害の時に困ると思う。
- 安全について、子供たちに声かけを続ける必要がある。
- 子供110番の家の大切さ、低学年の子でも頼れるところの大切さ教えたい。
- *学校でも一番に考えて行っているところでもある。

信頼される学校にするために

保護者・地域との連携・交流を充実する

取り組み状況・成果・課題

- ・国母祭り、文化祭等、参加体制を整えてきたが、教師の地域行事への参加意識は「そう思う」が35%と低い。保護者の受け止め方と違いがある。今年度は地域の河川清掃が中止になり、その分参加できる行事が減ったための数字と考えられる。
- ・学校日より、ホームページ、学年日より、マメルメール等を通して、学校の様子や緊急時の対応を発信することができた。今年度は新たに、ホームページに学年行事を年度1回ではあったが載せることができた。保護者にとって更にわかりやすい情報の発信とすることが課題である。
- ・保護者への対応は、管理職と相談しながら組織的に迅速かつ綿密に行ってきたが、相変わらず保護者の意識とずれがある。気軽に相談できる人間関係の構築が課題である。

改善策

- ・引き続き、小中学校の連携を密にしながら、積極的な参加に向けて協力体制を整える。
- ・ホームページの各学年行事が少ないので学校の教育活動が保護者にもよく伝わるよう情報の内容（当日の様子だけでなく、練習の様子など取組状況等）や写真、回数等、より工夫しながら発信する。
- ・日頃から連絡帳や電話等、保護者とコミュニケーションを密に図りながら、今まで相談に消極的だった保護者にとっても、何でも相談しやすい関係を作るよう努力を重ねる。

学校関係者評価でいただいた意見等

- 運動会 地域行事（子供クラブ）大学でも地域の行事に参加する 児童数が減ってきて地域行事に参加してくれる 個人では参加してくれるが 団体（ソフト・キック）などへの参加が少ない。
- まわりの住民の盛り上げが必要。
- 熊野神社の取り組みの紹介 獅子舞・除夜の鐘・屋台等
- 子供が参加できる行事を大切にしていこう。

その他(全体を通して)

- 学級崩壊やどうにもならない子はいるのか。
- *一日一度は校内巡視をしていますが、今のところそのような様子はみられない 校
- 昨年度との対比をみると、昨年度よりAだけ見ると落ちているが、ABまとめると21項目中8項目が落ちている。13項目はいい方へ上がっている。来年度はB→Aが増えていけるようお願いします。

